

PROFILE

近藤 成章

近藤産興(株)社長。当協会の副会長を務める。

生まれ/昭和8年11月 名古屋市

血液型/A型

信条/強く、正しく、明るく、温かく。

夢/長生きしていい仕事をする事

好きな食べ物/魚、麺類 嫌いなこと/消

極的、引っ込み思案、コソコソすること



「何んでも貸します」をキャッチフレーズに事業を展開されている近藤産興(株)の近藤成章社長は、当協会の副会長。その近藤さんにイベント司会・コーディネーターであり、ビジネスマナーインストラクターの花井美紀さんが自慢の〜をインタビューしました。さて、その〜とはいったい何でしょうか……。

20種類ほどの健康法を毎日こなしています

——「何んでも貸します」で有名な近藤産興さんですが、社長ご本人には「何んでもやれます」というエネルギーを感じますね。

近藤社長(以下近藤に略)『私はね、とにかく健康。20種類くらいの健康法を毎日やっています。磁器マットにじかに寝て、水はアルカリイオン水を飲む。万歩計をつけてウチから会社までの4kmを35分で歩く、これを毎日。1分の狂いもないです。そして1万歩に達するまではウチへ帰らない。達しないときは、ウチの近くをグルグル回って必ず1万歩にします。』

——まあ、徹底してますねえ！かえってプレッシャーになりませんか。

近藤『全然なりません。

もう体のリズムに組み込まれちゃってる。無理はしていませんよ。無理をすると三日坊主になるはずですよ。いつでも、どこでも、誰でも、タダもしくはタダ同然でやれるというのが、長続きする健康法の秘訣だと思っています。』

——すると近藤さんの一芸というか、誰にも負けないものは「健康法」ということですか。

近藤『そうですね。健康法というか、その考

え方とでもいいでしょうか。これはもう私、誰にも負けない。私は世界でただ一人、死なない方法を知っている男です。』

——死なない、とは穏やかじゃないですね(笑)。磁器マットや万歩計だけじゃなく、まだまだ隠れた何かがありそうですね。

近藤『そうそう。赤松の葉のジュースなんかもいいですね。葉っぱを自分で取ってきて、ジュースにして飲む。これはスゴクいい。青竹踏み、これも実にいい。薬用酒も自分で作るし、生クロレラも毎日飲んでいる。ポキポキ体操に、朝晩のフロ。亀の子タワシで全身を洗う。酒は人の5倍飲むけど二日酔いは一切ない。飲み過ぎて前後不覚になることはあっても、二日酔いはしません。』

——どんな肝臓してるんでしょうか(笑)。健康法に一生懸命な人って、過去に大病をなさっているケースが多いのですが、近藤さんは？

近藤『全然。もともと健康です』

——では何故、そんなに健康法にこだわっていらっしゃるのでしょうか。

近藤『今、平和でお金があって、いい時代でしょ。日本は2630年間ずうっと貧乏だった。マッカーサーが、200年分のペレストロイカをやって、日本からお金のかかる軍隊と軍事費をバツサリと切ってくれましたね。神武以来ですよ、こんないい時代。だからこそ、戦後わずか40数



年でこの豊かな社会を作れたんです。そのいい時代を長く楽しまなきゃ損ですよ。そのために、死なない方法、健康法を考える。するとだんだん元気になってきます。』

### 人生三ケタ時代がやってくる

— お元気なのはわかります。お顔にたるみやシワ、シミがないですね。失礼ですが今年でいくつになりますか？

近藤『この11月で60歳です。60なんてまだまだ若僧ですよ。もうしばらくすると医学の発達で、癌、心臓病、脳溢血なんかで苦しんでいる人が助かるようになります。すると、人生三ケタ時代がやってくる。「70や80で何を言っとるか!!」とか、「二ケタは黙っとれ!!」とか言われるようになる。』

— う～ん、すると私なんかまだ「女の子」で通りますね。

近藤『そうそう。子供なんて80歳でも産めますよ。「花井さん、86でまた子供産んだ」「そりゃめでたいなあ」とかね(笑)。昔は人生50年、いまでは考えられませんよ。貧乏で、鼻垂らしてて、富国強兵。戦争に連れていかれて、「おしん」で。だから、「昔は良かった」なんて言う人がいると、私は思わず「どこが良かったんだ!」って怒ってしまう。ホント、昔は絶対良くなかった。いいのは“今”です。』

— でも、出生率の著しい低下と高齢化社会の到来で、近い将来、若者二人で一人のお年寄りを支えなければならない時代がきます。非常に先行きを憂えているのも“今”ですよ。

近藤『年寄り一人を若者二人で支える? 「何をバカなことを言っとるんだ!」と言いたいですね。今の若者に、親に仕送りができる人間がどれだけいますか。

体はひ弱だし、頼りない。今は、定年になったら退職金があるし、厚生年金もある。70になったら70の、80になったら80の仕事があります。若者に養ってもらうなんて、とんでもない。年寄りが若者を養っていくんですよ。』

— シルバー産業という言葉がありますね。これは、従来、シルバー世代を消費者とする産業でしたが、これからはシルバー世代が生産者となる産業を指すようになるかも知れませんね。

近藤『そうです。セクハラじゃないですが、「こんな仕事……」という“職業ハラスメント”や、「こんな年で……」という“年齢ハラスメント”。こうした否定的な意識さえなくなれば、仕事なんていくらでもあるし、健康ならいくつまででも働けますよ。そのために50を過ぎたら健康法をおやんなさい、と私は言ってます。』

### 50歳過ぎたら健康法を始めなさい

— 50歳を過ぎたらでいいんですか。遅過ぎませんか？

近藤『十分です。40歳なんてまだ育ち盛りです。余計なことはしなくてよろしい。50過ぎたら一斉に始める。ただこれは毎日やらなきゃダメ。成功の秘訣は、成功するまでやめないことだと言った人がいましたけど、長生きのコツは、

長生きへの努力をやめないことです。これからは富国強兵じゃなく、富国富民の時代。いくら平和でも豊かでも、体制は変わるかもしれない。体制が変わって、さあ明日からやり直すぞという時のために、人間はいつも腕を磨いておくことが大切です。』

— 人間は基礎体力と精神力がきちんと備わっていないとダメ、



INTERVIEWER

花井 美紀

(株) コミュニケーションデザイン代表。  
イベント司会・コーディネーター、ビジネスマ  
ナーインストラクター、信用金庫協会女子職員  
講座の専任講師。TV・ラジオ等で現在活躍中



ということですね。では、それが十分にある近藤さんの一番間近な目標とは何ですか。

近藤『夫婦で百歳以上生きることです。そして子供も百才以上生きる。そうすれば、もう長寿の権威で、あちこちから秘訣を聞きにくる。「近藤さん、長生きする石けんは何ですか?」「う〜ん、〇〇セッケンだな」で、爆発的に売れる。「近藤さん、ビールは何でしょうか?」「そりゃ、△△ビールにきまっとる」で、また売れる。そして私も儲かると。』  
— そうなると、近藤さんのトレードマークの真っ赤なネクタイも、長寿ネクタイということになって売れ出すかもしれませんね。



近藤『実は、これはイベントの時などに着るブレザーにしめる貸し出し用のネクタイなんです。赤いネクタイは、しめるとパツと若返る。私はモーニングの時も赤いネクタイ。日本でただ一人、モーニングに赤いネクタイをしめる男です(笑)。』

— レンタル用のネクタイとは知りませんでした。でも、近藤さんは「〜でただ一人」ということが好きなんですね。

近藤『二番や三番はダメです。人がやっているから、というのもダメ。私だけ、というのをやり遂げることが大切です。』

“ん” にこだわり続けて

— 「こだわり」は価値ですね。無駄のように考える人もいますけど、実は大きなエネルギーを必要とするものだと思います。

近藤『(壁の額に入った色紙を指さして) この“ん”もそうです。私は“ん”大好き。頑固おやじを“ん”と言わせて娘をもらってこいだ

とか、減税を“ん”と言わせろとか、世の中すべて“ん”と言えばなんでも解決。“ん”と言って先に進む。』

— それで「何んでも貸します近藤産興」の「何」のあとに“ん”がついているんですか。普通、「何でも」で「なんでも」と読ませてしまいますよね。

近藤『商売するからには、やっぱり“ん”

が開かないとダメですよ。(壁の色紙を指し) この色紙は長寿ナンバーワンの泉重千代翁に描いていただいたものです。百十九歳の時でした。』

— 力強い“ん”です

ね。やはり長寿という「運」のあった方らしい揮毫ですね。そういえば、名古屋まつりのパレードなどで見かける近藤産興さんの太鼓には、“ん”と描かれていませんか。

近藤『あれは、ん太鼓です。樹齢千二百年以上の木をくりぬいて作られ、入魂もされています。中は総金箔張。帰りにどど〜んと打ってってください。開けますよ「運」が。』

— ありがとうございます。肯定思考と楽観論、歩くエネルギーといった感じの近藤さんのお話を伺って、私まで三ヶ塔まで生きられるような気持ちになってきました。

近藤『大丈夫です。悲観論を持ったら、それでおしまい。世の中は楽観論で回っていくわけです。豊かになりたい、が実現した。日本はますますこれから良くなる。長生きしなきゃいけません。』

— 最後に、月並みな質問ですが、是非ひとつ教えてください。趣味は何ですか。

近藤『長生きが趣味です(笑)。』